

23 植栽地の確認等	土壌の水素イオン濃度(pH)試験 行う 行わない 水溶性鉄類(Fe)の試験 行う 行わない	(23.1.3)															
	(23.2.2) (23.2.4)																
2 植栽基盤の整備	<table border="1"> <thead> <tr> <th>植栽</th> <th>工法</th> <th>有効土層の厚さ(cm)</th> <th>整備範囲</th> <th>土壤改良材</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・樹木</td> <td>※A種 ・B種 ・C種 ・D種</td> <td>樹高12m以上 (※100 ~ 120 ~ 150) 樹高7m以上～12m未満 (※80 ~ 100) 樹高3m未満 (※50 ~ 60)</td> <td>無栽植部分 ・結果部分 ・図示</td> <td>・適用する ・適用しない</td> </tr> <tr> <td>※芝、地被類</td> <td>※B種</td> <td>※20</td> <td>・植栽部分 ・図示</td> <td>・適用する ・適用しない</td> </tr> </tbody> </table> <p>植栽基盤の排水設置 設ける(※図示)) 設けない</p>	植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	土壤改良材	・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 (※100 ~ 120 ~ 150) 樹高7m以上～12m未満 (※80 ~ 100) 樹高3m未満 (※50 ~ 60)	無栽植部分 ・結果部分 ・図示	・適用する ・適用しない	※芝、地被類	※B種	※20	・植栽部分 ・図示	・適用する ・適用しない	
植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	土壤改良材													
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 (※100 ~ 120 ~ 150) 樹高7m以上～12m未満 (※80 ~ 100) 樹高3m未満 (※50 ~ 60)	無栽植部分 ・結果部分 ・図示	・適用する ・適用しない													
※芝、地被類	※B種	※20	・植栽部分 ・図示	・適用する ・適用しない													
3 植込み用土	※現場発生土の良質土 客土	(23.2.3)															
4 土壤改良材	<p>・パ-ト肥 (23.2.3)</p> <p>施工場所 ※植栽範囲 図示 使用量 植栽基盤面積1m²あたり(・50L ・)</p> <p>・汚泥洗浄肥料(下水汚泥洗浄)</p> <p>施工場所 ※植栽範囲 図示 使用量 植栽基盤面積1m²あたり(・10L ・)</p> <p>材料 「種等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、検査試験の調査の結果、害が認められないものとする</p>																
5 樹木	樹種、寸法、株立数等 ※図示	(23.3.2)															
6 支柱	支柱材 ※丸太(間伐材) ④ 真竹	(23.3.2)															
	防腐処理方法 深加工式防腐處理丸太材																
	形式 添え柱形、鳥居形、ハツ掛け形、布掛け形	(23.3.3)															
7 幹巻き用材料	材料 ※幹巻き用テープ わら、こも	(23.3.2)															
8 芝	種類 ※カバゴーニ パーク 芝張りの工法 平地、※目地張り べた張り	(23.4.2)															
9 吹付けは種	(23.4.2)																
	種子の種類 常葉草 種子の量(g/m ²) 備考																
	※洋芝類(播散後2年以内) ※発芽率80%以上																
10 地被類	(23.4.2)																
	樹種 ンチ径 単位面積当たりのコケ数 株立数																
11 新植、移植樹木、芝等の植保証	新植樹木(芝張り、吹付けは種及び地被類を含む)の枯補償の期間 ※引渡しの日から1年 無し 移植樹木の枯損位置を行う期間 ※引渡しの日から1年 無し																
12 屋上緑化	<p>植栽基盤及び材料 (23.5.2~3)</p> <p>・屋上緑化システム 土層の厚さ 排水層 軽量骨材(層の厚さ :) 板状成型品 植込み用土 ※ 改良土 人工軽量土 樹木の樹種並びに種類、寸法、株立数、寸法等 ※図示 見切り材、鋸盤材、水抜き管、マルチング材等 ※図示 (品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による</p> <p>・屋上緑化システム 芝及び地被類の樹種並びに種類等 ※ 図示 見切り材、鋸盤材、水抜き管、マルチング材等 ※ 図示 (品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による</p> <p>工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 (23.5.4) ※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 - 1.15 + 1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法) ・適用しない 支柱 設置する(形式、図示) かん水装置 置する(種類)</p>																
	監督員の検査を受けた使用すべきとされた材料であっても、設計図書に定めるJIS又はJASマーク表示のある材料並びに規格、基準等の規格証明書が添付された材料で、監督員の承認を受けた場合は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとして、取り扱うことができる。																
株式会社 横河建築設計事務所	△ △ △ △ △ △	東京都江戸川区上大崎2-25-2 株式会社 横河建築設計事務所 一級建築士登録 第210615号 長 浦 雄人	東京都江戸川区上大崎2-25-2 株式会社 横河建築設計事務所 一級建築士登録 第233442号 和 田 雄 志	東京都江戸川区上大崎2-25-2 株式会社 横河建築設計事務所 一級建築士登録 第307492号 柳 井 典 之	平成26年度静岡県立総合病院(仮称)新放射線治療・手術換周辺整備工事 A1:- A3:-												
YOKOGAWA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.																	

① 通常(90%)は「小口(二丁掛け)」の状態の試験体とする。 ② 特殊(10%)は「横幅(三丁掛け)」の状態の試験体とする。															
〔試験体の外観〕 JIS A5717(「レバーハンガーカーペット製品」の附録B(規定)及び推進仕様B-8に規定する普通紙-HD紙の寸法とし、表面をカット・ペーパーを用いて軽く研削した後、水温をして直ちに(1)で測定した料をさき7mmにしてよう塗装する。直ちに JIS A5291(遮蔽装置類)に規定する外装基準(「カバ付」で乾式成形1類(施うる)1口に108mm×60mm×12mm)を4枚2列、計8枚で覆する。															
その後、28日後、温度20±2°C、湿度80%以上の状態で満室養生を行い、これを試験体とする。															
〔試験方法〕 JIS K7414(「小口(二丁掛け)」の場合は同様に行う。)															
〔試験結果の表示〕 1口あたりの「小口(二丁掛け)」とともに、各々(4)接着強さ(標準時)の試験方法での試験結果と同様表示。															
〔温冷混返し〕 試験「小口(二丁掛け)」及び「横幅(三丁掛け)」とも、各々JIS A6090「建築用上塗材」の7.10.7項混返し試験に準じて行う。															
試験の手順は、(1)「小口(二丁掛け)」及び「横幅(三丁掛け)」で0-20°Cの露点温湿度中で時間間隔なし、次いで50±2°Cの別の露点温湿度で3時間間隔なし、この24時間で「ひびきする操作を10回繰り返した後、試験室に時間温湿度を、ひびき測定及びひびき目を有する目録によって記録する。															
〔温冷混返しの接着強さ試験方法〕 「小口(二丁掛け)」及び「横幅(三丁掛け)」とも、各々温冷混返し試験結果をもとに、接着強度を算出する。2日間静養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。(→「A501、4回引張」以上)															
〔長さ変化率〕															
JIS M202(「紙類用糊」「Pテープ」「糊マーク」と及び再乳化形乳液粘土崩壊率」)9.9長さ変化率に準ずる。															
(7) 曲げ強度の試験方法															
JIS K9161(「接着用熱溶融塗材」)7.11(「接着試験」)に準ずる。															
試験室の状態: 試験室は、温度20±2°C、湿度65±10%とする。															
<既製品> (目地材)															
〔品質・性能〕															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>品質・性能</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>吸水率</td><td>30.0%以上</td></tr> <tr> <td>吸水変化率</td><td>0.2%以下(収容)</td></tr> <tr> <td>吸水率</td><td>50%以下</td></tr> <tr> <td>単位容積質量</td><td>1.8kg/m³以上</td></tr> </tbody> </table>		項目	品質・性能	吸水率	30.0%以上	吸水変化率	0.2%以下(収容)	吸水率	50%以下	単位容積質量	1.8kg/m ³ 以上				
項目	品質・性能														
吸水率	30.0%以上														
吸水変化率	0.2%以下(収容)														
吸水率	50%以下														
単位容積質量	1.8kg/m ³ 以上														
〔試験方法〕															
(1) 試験の条件															
試験は、温度20±2°C、湿度65±10%の標準状態とすると。また、試験に使用する材料、器具などを、2次の4時間以上標準状態に置いた後使用する。															
(2) 試験の範囲															
直角引張り曲げ強度(上部)が±1.0、±1.1、±1.2、±1.3の4種類の材料を用いることの下に要する材料に相当する量を評価して測定し、さらに標準水吸水率により算出し、相当する量の標準水を用いて測定する。繰り返しは、測定水は、JIS R2017(「糊の物理試験方法」)10.1に規定する繰り混ぜ液を用いる。繰り返し用に用意した水を入れ、繰り返ししながら30分間に材料を投入し3分間間隔で混ぜて試験とする。															
(3) 保水率(糊紙法)															
JIS R2027(「糊・糊及び糊液」)4に規定する取締糊(糊)(端面200mm、幅50mm)の上にJIS P3801(「紙(化成糊紙)」)に規定する5A紙(内径18mm、外径15.8mm)をのせ、その中央部に真鍮製L型成型(内径5mm、高さ10mm、幅5mm)を設置し、2通り混ぜた糊を金葉へ平滑に黏り込む。その直後にL型成型上部に糊を設けて上部を逆にして、ろ過紙部分が上部になるようにして配置する。															
10分後に糊を上部にじみ出した時の水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角的な方向の長さをもとめて用いて1mmまで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。															
保水率(%) = (保水率/5) × 均匀値 × 100 注) 50°ヤード巻の内径(m)															
(4) 単位容積質量															
(2) で繰り混ぜた試験用、JIS A1171(「糊(セメント糊)」の試験方法)の6.3に規定する方法で求める。															
〔長さ変化率〕															
(2) で調製した試料を用いてJIS A1171の7.6長さ変化率試験に従って行う。															
(6) 硝水性															
(3) で調製した試料を用いてJIS A1404(「建築用セメント防水剤の試験方法」)10に規定する方法で24時間の硝水性を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。															
<防水剤> (品質・性能)															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>品質・性能</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防水剤の種別</td><td>建物用の瓦屋根に用いられる防水剤</td></tr> <tr> <td>混合方法</td><td>糊と混ぜて用いる</td></tr> <tr> <td>凝結及び安定性</td><td>(凝結) JIS R5201(「シリカの物理試験方法」)の8の規定によって行う。 (凝結時間) 始発、1時間以上、終結、10時間以内 (安定性) JIS R5201(「シリカの物理試験方法」)の9の規定によって行い、耐久性、耐張性のひび割れ及びそりについて観察する。</td></tr> <tr> <td>曲げ及び圧縮強度比</td><td>70%以上</td></tr> <tr> <td>吸水率</td><td>95%以下</td></tr> <tr> <td>透水性</td><td>80%以下</td></tr> </tbody> </table>		項目	品質・性能	防水剤の種別	建物用の瓦屋根に用いられる防水剤	混合方法	糊と混ぜて用いる	凝結及び安定性	(凝結) JIS R5201(「シリカの物理試験方法」)の8の規定によって行う。 (凝結時間) 始発、1時間以上、終結、10時間以内 (安定性) JIS R5201(「シリカの物理試験方法」)の9の規定によって行い、耐久性、耐張性のひび割れ及びそりについて観察する。	曲げ及び圧縮強度比	70%以上	吸水率	95%以下	透水性	80%以下
項目	品質・性能														
防水剤の種別	建物用の瓦屋根に用いられる防水剤														
混合方法	糊と混ぜて用いる														
凝結及び安定性	(凝結) JIS R5201(「シリカの物理試験方法」)の8の規定によって行う。 (凝結時間) 始発、1時間以上、終結、10時間以内 (安定性) JIS R5201(「シリカの物理試験方法」)の9の規定によって行い、耐久性、耐張性のひび割れ及びそりについて観察する。														
曲げ及び圧縮強度比	70%以上														
吸水率	95%以下														
透水性	80%以下														

〈自動・7時間法〉	
〈品目・性能〉	
耐熱試験・判別装置	
項目	品目・性能
自動重荷	定格重荷に対する90%～10%の重荷で作動に異常がない
適用使用温度範囲(℃)	-10℃～40℃
素動軸の初期防錆措置	素動軸に「シリカ」ガムを内蔵、又は防錆剤に初期回路を設置
加熱装置(本体セパレート構成)※	容量、性能
昇温速度	最終昇温90～110℃で動作させた時に異常がないこと。
圧力駆動圧容器	無接点
先端部接合部	AC100V 0.3A以上 (抵抗負荷) D650V 0.1A以上 (抵抗負荷)
溶接接合部	DC30V 0.3A以上 (抵抗負荷) D650V 0.1A以上 (抵抗負荷)
応答時間(秒)	0.3秒以下
換出範囲	試験により確実に作動すること。
適用使用初期温度(℃)	-10℃～40℃
〔試験方法〕	
(1)各昇温時間3m/secの昇圧で移動している標準軸体が換出範囲に入ってから、ON信号を出力するまでの時間を測定する。	
(2)耐熱試験	
a. ジャンボ(1kg)は、直徑100mmの鋼製円柱(質量10kg)を不感部を除く全面に静かに置いたとき、確実に作動すること。	
b. 上部取付け形の軸体換出形は、150mm/secの速度で、換出範囲に近づいたとき確実に作動すること。	
c. 上部取り付け形の静止軸換出形は、50mm/secの速度で、換出範囲に近づいたとき、確実に作動すること。	
d. 取付け位置なしに上記、上記によりがたい場合は、当該セパレートした方法の試験を行い確実に作動することを確認する。	
(3)試験条件	
(1)無電界付又は無電界付の換出軸及び換出範囲試験は、JIS A1511の7.6による。	
(2)熱膨張性：被検出体表面温度、33±2℃とし、耐温湿度は、被検出体表面温度より5°C±2°C以内とする。	
(3)超音波入射：-温度～-10℃、温度75%、風速10m/secとする。	
(4)試験室の状況は、JIS Z8703「試験場所の標準状態」の常温、常湿による。	
(5)耐放射線	
放射無線周波発生器により試験とする。(ただし、電界強度は一定とする。)	
〈自封式上引吊り装置〉	
〔試験方法〕	
(1)永久性(閉閉差りなし)試験	
附に付いては外見によらず、軸体部の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開閉位置から閉鎖位置までの開閉動作を有する軸を含む。	
運用軸起動装置の外見・封緘装置、制御装置は10万回以上の滑走で1回のみ破裂を行えるものとし、また他の封緘装置については(1)～(3)の永久性試験成績書において2万台以上の規定期間を確保することで、試験に代わることができるものとする。	
(2)衝撃試験	
落下高17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。耐衝撃性試験に用いる試験軸は片戸引戸、開口内面有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。運用軸起動装置の区分番号に試験を行なうこと。	
(3)気密性試験	
JIS A1516「連続の気密性試験方法」による。	
〈現場充湯耐熱材〉	
〔品目・性能〕	
項目	品目・性能
燃焼性	下記のいずれかによっていること
(1) JIS A1521「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃乙級表面加熱試験結果で、燃焼表面温度が試験温度に適合していること。	
(2) 法規不燃化基準、即ち材料の評価方法に適合して使用している発燃性試験(コロカット試験)に適合していること。	
発熱性	半導体材料軸材の加熱時間は10分、難燃材軸材の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。
(1) 絶縁耐熱温度700℃以下であること。	
(2) 防火仕様による構造まで保護する亜鉛及び穴がないこと。	
(3) 最高燃焼度が、0.5秒以上経過して200W/m ² を超えないこと。	

〔試験方法〕
JIS A1040「建築用セメント防水剤の試験方法」による。ただし、透水試験における水圧は、294.0kPaとし1時間行う。

【前段部】**〔シリカ質及びシリカ・本綿り絹〕**

(性質)
シリカの出力寸法は1mm以上とする。鍵付きのものは#180-#1、グランドマリヨン、コムテクノヨードなどのシリカの構造でできるものとする。

(性状)
使用用途による性状

- シリカ質のみのシリカ・トの開閉網目り返し試験(40回)を行った後、シリカのでの開閉操作力及びシリカが力の消失を無くまで、動作に支障がない。
- シートによるシリカ・トの繊維網目り返し試験(10万回)を行った後、試験前の回転網目2倍未満であり、繊維網目間に支障がない。(シリカ・ト本綿り絹のみ)シリカ・ト織体の繊維網目り返しの断面は、シリカだけの回転網目が10cm以下とする。
- シートによる繊維網目の断面差及び試験(10万回)を行なった後、試験前の回転網目2倍未満であり、繊維網目間に支障がない。
- シート引ききしめ試験(10万回)を行なった後、ハの引き差しに要する荷重は10N以下である。また、未使用のコンクリートで引張るが荷重で、かつ、1回所の表面剥落しきれいをもつ異なる4点で、シリカが回旋しないこと。(特に引掛かる場合は、150N- \pm 0.5%とする)

外力に対する強度
1)ハの引込み強度試験(10回)を行なった後、荷重をえたときのハ・ド・トの出力寸法は3mm以上であること。
2)ハ・ド・トの耐圧強度試験(10回)を行なった際、加压板がハ・ド・トを脱落しない。
3)ハ・ド・トの引込み強度(標準試験)試験(58.8)の繊維網目を加えたとき、解状態(ハ・ド・トの突出部が消失)までにならないこと。
4)ハ・ド・トの耐衝撃試験(標準試験)試験(58.5)の繊維網目を加えたとき、解状態(加压板がハ・ド・トを脱落した状態)にならないこと。
5)シリカ・本綿り絹をハ・ド・トの上に置いた場合)ハ・ド・トの厚さ1.5mm以上のひび割れ製とし、1995は81.6mm以上の鋼線の一体性りする。又は平行の接着面と接着面を持つもの

直近、加留門の開 き度合(%)	100	新しいこと。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。	新しいこと。
荷降し開閉後の「 ドアヒンジ」の 回転性(%)	100	新しいこと。 耐久試験後も上記初期値を満足 していること。	-
轟度×開閉角度の「 ドアヒンジ」回転性(%)	100	新しいこと。 耐久試験後も上記初期値を満足 していること。	-
長さとし間隔後の芦 筋付合(%)	-	-	耐久試験終了8mm以内
耐久性的試験 回数(繰り 返し開閉回数)	20回 20回	20万回 10万回	30万回

注1. nの数字付は、右表の同じシートの70%程度までとする。
 注2. ドアヒンジ型は右記の同じシートの50%程度までとする。
 Gradeを選定する場合は、図示による。

(1)表面試験(溶融波膜表面試験)
JIS K7117-17「アルミニウム板、乳鉢又は分散状の樹脂」^aルコート形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法による。

(2)発泡品試験

- 1) 試料の作成は、JIS A6526「建築用断熱材吹付用硬質ウレthane」の6.2.1による。
- 2) 硬質ウレthane供試物は、JIS A6526の6.2.2による。また、試験品の作成はJIS A6526の6.2.3による。
- 3) 試験品の状態観察及び試験場所は、JIS A6526の6.2.4による。

(3)压缩強さ試験
JIS A6526の6.2.5により、測定はJIS K7220「硬質発泡アクリル系耐候性の求め方」による。

(4)熱伝導率試験
JIS A6526の6.2.6により、JIS A1412-1「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法 第1部：保熱熱流法(印加法)」又はJIS A1412-2「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法 第2部：熱流法(印加法)」によって、平均温度(23±2)℃、高温層と低温層の温度差(25±5)℃で熱伝導を測定する。

(5)接着強さ試験
JIS A6526の6.2.7による。

(6)透湿率試験
JIS A6526の6.2.8により、測定はJIS 13247「建築材用の透湿性測定方法」又はJIS K7225「硬質発泡アクリル系水蒸気透湿性の求め方」による。

(7)離型性試験
JIS A1521に規定する試験方法に準じる。

(8)発泡性試験
建築基準法に基づく指定性能耐候機関が半不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。